令和５年度　音楽科実践・研究計画

部　員	○大山　光子、中田　貴広

研究テーマ
「音楽のもと」を意識し、思いをもって音楽と豊かに関わる子どもを育む学び

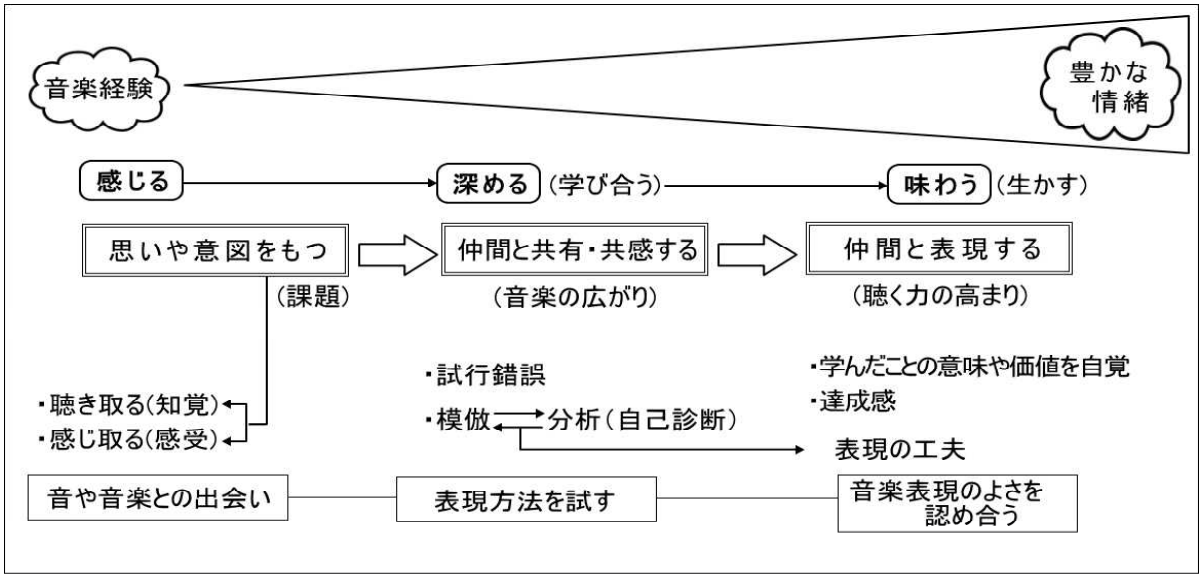
１　研究テーマについて

音楽科では、子どもたちが生涯にわたって音や音楽と豊かな関わりを築き、音楽を通じて生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指している。

これまで子どもたちは、「楽譜を読む」活動に取り組み、曲と出会った場面で、感じ取ったことの理由を「音楽のもと」の働きと結びつけて考えたり、その働きがどのようなよさや面白さを生み出しているのかを見付けたりする姿が見られた。一方で、「楽譜を読むこと」で新しい発見をしたり、音楽に込められた思いを受け止めたりし、自分の音楽に託したい思いと結び付けて表現しようと試みるものの、それがよりよい表現につながっているのか見直す点に課題が見られた。よりよい表現にするために必須なのは「聴く力」である。その力を育てるためには、音や声で確かめ合う場面を充実することや「音楽のもと」を根拠として、仲間と対話する言語活動が重要である。よりよい表現を目指すには、「音楽のもと」そのものが「学びのものさし」となる。仲間と表現することで得られる達成感や満足感を共有しながら、よりよい表現を実感できる活動を充実させていきたい。

そこで、仲間と表現する過程で、聴き合うことにより音楽のよさや面白さを共有し、「音楽のもと」を根拠としてよりよい表現を目指していく子どもの姿を期待し、実践を積み重ねていく。

音楽科で目指す自律した子どもの姿
・「音楽のもと」（音楽を形づくっている要素）に目を向けながら、自らの音楽表現をよりよいものにしようとする姿
・感受と知覚の両方を働かせて、思いをもって音楽に働きかける姿
・音楽活動を通して仲間と共有・共感するなど、人とのつながりを大切にする姿



図：音楽科　自律した学習者を育てる学習のプロセス

２　研究の重点　〈○は具体的な取組の例〉

音楽的な「見方・考え方」を働かせながら、よりよい表現を目指す子どもを支えるための手立て

○思いに合った音楽表現をつくり出そうとする段階で、音や声で試したり修正したりすることを重視し、音楽表現のよさを価値付ける。
○根拠をもって互いの音楽表現のよさを認め合うことができるように、例えば「演奏する役」「聴く役」になり、聴き合い助言し合える場を設定する。